1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2775500834		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム寿光園		
所在地	大阪府八尾市楽音寺2丁目125番地		
自己評価作成日	平成 28年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 5月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=2775500834-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 4月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に自分らしく生活していただく為に、利用者のできることや得意なことの把握に努め、掃除や洗濯、食事などの日常生活場面に出来る限り参加していただき、日々何気なく過ごすのではなく、「生活している」という実感を持ってもらえるような援助に努めています。また、余暇時間にレクリエーションを取り入れたり、四季折々の行事を企画し、生活の中に楽しみを持ってもらえるように努めています。健康管理の面でも併設施設の診療所との連携を密にし、健康上の問題点や不安な点などいつでも相談できる体制があります。ホームでは「あたたかい手、あたたかい笑顔、あたたかい心」を理念とし、利用者が自分らしく生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後38年、先駆的な役割を果たしてきた社会福祉法人が介護保険制度開始と同時にモデル事業として開設した1ユニットのグループホームです。ホームは同法人高齢者総合ケアステーション敷地内に特養と併設されており、常に特養等と連携して災害対策や職員の育成等に力を入れると共に、同法人診療所と提携して緊急時24時間医療連携体制を整えています。開設後16年のホーム内は手入れが行き届き明るく清潔で、1階には広々とした居間と食堂、台所、浴室、多目的に活用できる和室があります。2階居室は日当たりが良く田園風景が一望できます。職員は利用者の力を活かした生活支援と鍵をかけない自由な暮らしを大切にしています。利用者は自分のペースで毎日入浴を楽しみ、職員と一緒に新鮮な食材で美味しい食事作りをしています。体操や昼寝でリフレッシュしながら、洗濯物たたみ等得意なことで力を発揮しています。天気の良い日は散歩や買物に出かけ、家庭菜園で野菜を育て、時には庭園でバーベキューやビールを楽しんでいます。地域や家族との連携も良く利用者と職員が安心して過ごしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示しているほか、毎朝のミーティングの中で話をするところがある。また、パンフレットにも掲載している。	「あたたかい心、あたたかい笑顔、あたたかい手」を理念としています。理念は運営の方針に「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、心身の特性を踏まえ、尊厳ある自立した日常生活が営むことができるよう・・・必要な援助を行うものである」と具体化し実践につなげています。理念はホーム内に掲示して共有し、職員はミーティングやカンファレンス等で話し合い、理念を活かした支援を実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を通して地域の方々と情報交換をしている。また、夏祭りなど施設の行事に地域の方々が参加してくださっている。</p>	<p>地域の夏祭りでは隣接する法人特養玄関に太鼓台が立ち寄り、利用者は出迎えて接待するなど自然に交流しています。法人主催の「夏祭り」には地域住民が多数参加して利用者と交流することで、地域の理解も深まっています。日常的には三味線ボランティア等に来訪してもらい楽しんだり、近くのスーパー等へ買物に出かけ馴染みの関係を作ったり、隣接する畑の所有者と交流しホーム園芸のアドバイスを受けたりしています。管理者や職員は町会行事等にも参加して地域交流が進むよう努めています。また、地域包括支援センター主催の介護者教室や介護予防教室等に出向き、地域住民に「認知症についての対応」をアドバイスする、講師を務めるなど地域貢献にも努めています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議などで、その時期に応じた議題について話をしている。また、地域の方々に認知症についての対応や予防方法など地域包括主催の介護者教室、予防教室などでグループホームの職員が話している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>必ず2ヶ月に1回会議を開催しており、その中でグループホームにおける利用者の状況や運営の状況など報告し、地域からの意見も参考にしている。</p>	<p>運営推進会議は、開催規程に沿って2ヶ月に1回、年6回の定期開催をしています。構成メンバーは利用者、家族、地域の代表(民生委員、高齢クラブ代表)、地域包括支援センター職員、ホーム職員です。最近の会議ではホームから①行事、外出、利用者状況等について②地域交流・連携について③サービスの質の向上・確保について等を報告し、参加者からは地域情報等の提供を受けて意見交換しています。作成した会議録は毎回玄関に掲示し閲覧できるようにしています。会議で出された評価・意見等は、ホーム運営に活かしています。管理者と職員は運営推進会議が地域との連携推進に効果的な役割を果たしていると実感しています。今後も『“地域にある施設”から“施設のある地域”』を目指して、さらに会議内容の充実を図る予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>担当課と連携をとり情報の交換を行っている。</p>	<p>市担当課や地域包括支援センターとは日常的に情報交換、意見交換を行い密接に連携しています。また、地域包括支援センター主催の介護者教室、介護予防教室に協力し、認知症についての対応や予防についての講話をしています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>申し送りや施設内研修などで、身体拘束は禁止であることを話しており、緊急やむを得ない場合の身体拘束についての手順なども話をしている。</p>	<p>ホームでは「身体拘束をしないケアのマニュアル」を整備し、定期的に研修を実施して研鑽に努めています。職員は身体拘束をしないケアの重要性を理解し、スピーチロック(言葉による拘束)等や言葉使いにも注意し支援しています。さらに利用者の安全に留意しながら、玄関やエレベーター等に鍵をかけた自由な暮らしを支援しています。利用者が階段を昇降する際には職員が見守り安全確保に努めています。利用者が外出する場合には職員がさりげなく付き添い支援をしています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての研修を行っているとともに、入浴時などに身体のチェックをして注意している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者がおり、関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面接時に重要事項の説明を行っている。その際に疑問点や不安など尋ね、説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに要望などを聞くようにしているほか、法人の玄関に意見箱を設置し、意見・要望があれば検討する体制がある。また、苦情受付窓口を設けているほか、介護保険課や国保連の窓口を重要事項に記載している。第三者委員の協力もあり、事業所内に苦情受付の案内を掲示しており、運営に反映させる体制がある。	職員は家族の面会時に、利用者の様子を報告しながら、家族の話を聞くことに努めています。連絡ノートに家族との会話の内容を記録し、職員間で共有しています。家族の要望・意見は、職員で話し合い、ホーム運営に反映させています。管理者は、家族の意見や要望はサービスの改善・向上につながる重要なことであると職員を指導しています。ホーム玄関には意見箱を設置しサービスの改善・要望について、申し出を勧める案内を掲示しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の自己評価を年に2回実施しており、その中で職員の意見や要望を聞く欄を設けている。また、日々の中で申し送りなどを利用して意見などを話し合う機会がある。	職員は毎日の仕事の引き継ぎ時に、話し合いや意見交換をしています。連絡ノートは重要なツールで、決まったことは連絡ノートに記入し全職員で共有しています。計画作成担当者は日常的に職員の要望・意見を集約し、管理者と相談しながら運営を進めています。管理者は年2回、職員の自己評価時に個人面談の機会を設け、計画作成担当者を中心に職員の要望や意見について話し合い、ホーム運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設内外を巡回し、ハード面での整備を確認しているほか、現場職員に声をかけている。また、職員通用口に意見箱を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市の協議会や府の協議会などに参加し、情報の交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用者から訴えがあった際はできる限りその場で聞き、問題解決につなげているほか、職員と利用者が一緒に過ごしている時間を設け、話を聞けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安なことや要望など聞くように話しをしている。また、面会時などにも聞くように信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の性格や特徴、環境、に応じてサービス内容を提示して相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者のレベルの把握に努め、利用者のできる事を職員と一緒に日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに必ず家族と職員が話す時間を設けて、現状説明など行い、今後の対応方法などを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所時に家族に協力を求める声掛けを行っている。また、利用者との日々の会話の中で、生活歴や馴染みの場所などを聞き、テレビなどでその場所が出てくると一緒に見て話をしている。</p>	<p>知人や友人の来訪時には利用者の希望に添った支援をしています。手紙や電話をかける支援についても、利用者が必要とする際にタイムリーな支援を心がけています。年賀状や暑中見舞い等についても、希望があればみんなで取り組めるようにしています。職員は日常会話やテレビ報道等を通じて、利用者の馴染みの場所や風景を話題にしながら利用者の思いや関係が途切れないように支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりのレベルの把握に努め、利用者同士が円滑に行動できるように、職員がその輪に入るようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時には、福祉に関する相談であればいつでも受けることを伝えておくと共に、いつでも遊びに来てくれるよう伝えておいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と生活している中で、利用者との過ごす時間を設け、利用者からの要望を聞いたり、不安の解消などに努めている。	職員は利用者一人ひとりのこれまでの暮らしや生活環境を理解して対応することで、利用者が自分の要望を出しやすくなるよう配慮しています。日常会話の中で利用者の思いや意向を確認し、利用者に不安等があれば対話の時間を設けて解消するよう努めています。思いや意向が把握しにくい場合には家族に相談して対応することもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、本人に昔の話を聞くほか、家族にも情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のレベルの把握に努め、日常生活の中で何が出来るのかを把握し、一人ひとりに合った援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族の面会時などに現在の状況を説明し、家族の希望を聞き、今後の対応方法など、職員と話し合い、利用者が安心して出来る限り自立した生活が出来るよう計画作成に努めている。</p>	<p>利用者の意向を確認し、家族と相談しながら介護計画書の作成を進めています。職員間では意見を出し合い、自立支援を意識した介護計画書案を作成しサービス担当者会議を開催しています。職員は介護計画書に沿って利用者支援を行い、実施記録を残しています。介護計画書は月1回モニタリングを行い、3カ月に1回見直しをしています。</p>	<p>ホームでは今後もさらに、利用者一人ひとりの好みや嗜好や好みに合わせた取り組みを進めることで、日々の生活がより楽しくなるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日勤日誌やケースなどに状態の変化などを記録している。また、職員全体が情報を共有できるよう、連絡帳などを活用しており、計画の見直しなどに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>既存のサービスに固執せず、希望に応じて検討し、対応できる機能がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんによる演芸会などに参加し、生活を楽しめるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に事業所の協力医療機関を伝えているほか、希望の医療機関を聞いている。また、併設施設の診療所との連絡帳を作っており、利用者の状況の共有に努めている。	利用者・家族の希望に添った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。同法人併設施設の診療所と連携して、緊急時には迅速に適切な医療が受けられるよう利用者の状況を毎日看護職員に報告しています。また、週1回同法人看護職員が利用者の健康状態を確認して生活上のアドバイス等を行っています。利用者の状況によっては医療につなげる場合もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の診療所の看護師がいつでも来れる体制があると共に、いつでも相談することができ、日常の健康管理などにも繋がっている。また、24時間体制で看護師と連絡がとれる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、その病院の地域医療の職員と連携をとり、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に、重度化した場合のことについて話をしている。また、利用者が重度化してきた場合には、グループホームの職員、医師、看護師、家族との面談を行う機会を作り、今後について話し合うことができる体制がある。	ホームでは入居時に、利用者の状態が重度化した場合の対応について説明を行い、利用者・家族の意向を確認しています。積極的な看取り支援は行っていないが、重度化した場合には家族、医師、看護師の参加を得て今後の対応について話し合いをしています。多くの利用者は特養等に申し込みをして転居される状況ですが、時には重度化しても短期間はホームで過ごされる場合もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、緊急時に対する対応方法など研修や申し送りで話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>特養と合同で避難訓練や初期消火訓練を行っているほか、施設内研修などで話をしている。</p>	<p>災害時対応マニュアルに沿って消防署と連携し、同法人併設施設合同の避難訓練を年3回実施しています。グループホームは玄関前と横に併設施設があり、法人内の協力が受けやすい状況にあります。職員は非常時の対応について施設内の研修を受けるなど、事前の備えにも力を入れています。災害時に備えて、食料品を一部ホーム内の食糧保管庫に備蓄していますが、多くは同法人併設施設内に備蓄しています。</p>	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>周囲の環境などを考慮しながら、声のトーンに注意し、利用者一人ひとりに合った声掛けや対応に努めている。</p>	<p>ホームでは利用者一人ひとりの主体性を大切にし、利用者の気持ちに添った支援を心がけています。利用者の尊厳を守ることを職員間で話し合い、プライバシーに配慮した対応を心がけています。職員は人権に関する外部研修を受講し、ホーム内で伝達研修を行うなどして利用者支援に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択権があるような声掛けができるよう心掛けている。また、利用者と職員が共に納得して活動ができるように話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調に応じた一日を過ごすことができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、顔そりなどは月に1回、美容師の来園した際に対応している。また、衣類が汚れれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者のレベルに応じて、できる範囲内で一緒に行っている。</p>	<p>食事は栄養バランスを考慮して、同法人特養の献立を参考にしながら利用者の希望に添って朝、昼、夕、3食とも手作りをしています。職員と利用者が買物に出かけ新鮮な食材を選んで調理をしています。季節のよい時期には共に育てた野菜を収穫して食材にすることもあります。利用者は下ごしらえ、配膳、後片付け等に参加しています。利用者はおやつ作りでも力を発揮し、食材をつぶしたり形に仕上げたりして楽しんでいます。利用者は同法人施設庭園でバーベキューやビールを楽しみ、特別食ではマグロの造りを味わうこともあります。職員は利用者のペースを尊重し、ゆっくと談笑しながら共に食事を楽しんでいます。</p>	<p>ホームでは気候のよい時期に利用者の希望を活かして外食に出かける予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランス確保のため、特養の献立を参考にしている。また、定期的な水分補給に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に対し、食後は必ず歯磨きの声掛けと見守り、一部介助など行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のレベルの把握、排尿間隔の把握に努め、なるべく失敗しないよう、トイレ誘導を行っている。	職員は利用者の排泄状況を細やかに把握して、利用者一人ひとりの排泄支援を行っています。職員は自立支援を心がけ、必要な場合にはそれとなく声かけをして利用者ができるだけ失敗をしないように、プライバシーに配慮した支援に努めています。また、散歩や運動、水分摂取等にも配慮して快適な排泄ができるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面での行動を中心に参加してもらっていると共に、食事摂取や水分補給に努めている。また、散歩なども気候のいいときに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前、午後とも入浴の時間があり、希望に応じて行っている。入浴は利用者のペースに合わせて入ってもらっている。	職員は毎日の日課として入浴支援に取り組んでいます。ホームでは利用者全員が毎日、午前、午後の好みの時間に分かれて当然のように入浴を楽しんでいます。ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も用意して利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日常生活場面で出来ることに参加してもらっており、安眠に繋がるよう支援している。また、昼間でも横になって休憩をとれる体制がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成し、職員が薬の役割を確認できるようにしている。また、利用者に薬を服用にってもらう際は、必ず日付、名前、顔などが一致しているか確認して服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なこと、好きなこと、嫌いなことなどの把握に努め、日常生活場面を中心に役割を持ってもらえるよう、支援している。レクリエーションなども取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買物などは利用者と一緒に歩くようにしているほか、外出など家族に協力してもらっている。また、季節に応じて外出をしたり、気候がよければ散歩などにも行くようにしている。	天気の良い日には、ホーム周辺の散歩や近くのスーパーに買物に出かけています。隣接する特養ロビーに出向いて談笑し、併設施設の庭園に出かけてバーベキューを楽しむこともあります。年間行事では花見や夏祭り、法人施設合同の運動会等に参加して楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などに一緒に行き支払をしてもらうことができる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期に応じて装飾など行っているほか、職員と共に過ごす時間を持って家庭的な雰囲気が出せるように努めている。	ホームは2階建て、1階には広々とした居間と食堂、共有の和室が2部屋あります。玄関を入ると利用者と職員が作成したパネルを飾っており、明るい雰囲気づいています。居間には利用者全員がゆったりと座れるソファを配置し、和室は利用者の休養等多目的に活用しています。台所、トイレ、浴室等は利用者が活用しやすく工夫しています。居室は2階にあり利用者は階段やエレベーターを活用して自由に行き来しています。	ホームは開設後16年を経過していることもあり、今後も定期的な設備点検を行うことで、安全で快適な環境を保持できるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には畳みの部屋もあり、一人になる事ができる空間がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れたものなどを持参してもらえよう家族に話をしており、できる限り入居前の部屋の感じが出るように努めている。また、入居してから本人の希望に応じ部屋の環境作りに努めている。	居室は日当たりが良く、周辺の風景を一望できます。居室は洋室と和室があり、タンス、ベッド、洗面台が備えつけられています。利用者は仏壇や使い慣れた家具、テレビ、時計、写真、ぬいぐるみ等を持参して住みやすく工夫しています。職員は利用者が自宅から馴染みの品を持参されるように勧め、これまでの生活を尊重した居室設定ができるようにしています。職員は利用者がより快適に過ごせるよう室内の整理整頓、空調等にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができる限り残存能力を発揮し、自立した生活が出来るよう、必要な場所には手摺などがあり、職員の見守りのもと生活できるようにしている。		